

りにも活用し、社会インフラそのものを低環境負荷で持続可能な姿へと転換していきたいと考えています。

こうした挑戦を通じて、AIやその基盤となるIOWNの低消費電力技術などを用いて、人々の豊かな暮らしや、より安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献していくとともに、NTTグループの事業成長にもつなげていきたいと考えています。

—10年後のNTTグループの姿を、どのように描いていますか。

この40年間、NTTグループはその時々々の事業環境やお客さまニーズを踏まえ、事業のポートフォリオを変化させてきました。民営化当時は電話のビジネス、固定通信が90%近くを占めていましたが、直近ではSI（システムインテグレーション、データセンター）が4割に拡大し、その半分は海外です。また、一次産業、金融、エンターテインメント、自動運転、宇宙といった新たな分野にも挑戦しています。

2030年代の事業環境は現在とは大きく様変わりし、私たちが提供するサービスやプロダクトは顧客のニーズに応えるために高度化・多様化し、対峙するマーケットも日本国内から世界へと、いま以上に飛躍的に広がっていることが想像されます。

この変化を後押しするのが、先ほどお伝えしたIOWNや光量子コンピューターといった次世代技術です。これらが社会インフラとして本格的に普及・実装されることで、より大規模で高精度なAIや、リアルタイムに連動するデジタルツインが、日常生活や産業活動に自然に溶け込む社会が実現しているでしょう。高度な技術が社会のしくみとして当たり前になり機能し、暮らしやビジネスはより直感的かつ豊かなものへと進化しているはずです。このような時代において、私たちNTTグループは、世界中の国や地域、企業、研究機関などと連携し、次世代の社会インフラを共創するエコシステムの中核を担う存在でありたいと思っています。

一方で、このように急速に変化する時代の中においても、私たちの根底にある「ありたい姿」は一貫して変わることはないと考えています。私たちは「NTT Group's Core」をゆるぎない核として、グループ一丸となってその実現をめざします。

—最後に、若手社員・新入社員へのメッセージをお願いします。

NTTが民営化から40年を迎えることができたのは、これまでの歴史をつくってきた一人ひとりの力があつたからです。技術革新や制度改革の背景には、必ず現場で試行錯誤を続けてきた人がいます。その積み重ねこそが、今日のNTTを支えてきました。

同時に、この40年でNTTの事業領域は大きく広がり、通信にとどまらず幅広い分野で社会を支える存在へと進化してきました。事業が多様化した今だからこそ、これまで以上に、さまざまな経験や考え方を持つ社員一人ひとりの力が必要です。

私は就任以来、「CXはEXから生まれる」という言葉を大切にしています。お客さまに